

佳作

ますます深まる絵本の世界

小林 登喜代

柳田先生、お久しぶりです。お元気ですか。今年も、こうして先生にお手紙を書くことができ、とても嬉しく思います。

我が家の3人の子供たちは、変わらないの本好きで、特に2年生になった長男は暇さえあれば本を読んでいます。読む本のジャンルがどんどん変わってきて、興味のある本を次々と読んでいます。今は、特にノンフィクションの本が好きなので、歴史にも興味を持ち始めました。年長になった長女は、自分で絵本を読むのが早くなり、妹に読み聞かせをしてくれるまでになりました。そんな兄弟の姿をみて、2歳の次女も読んでもらっただけで

はなく、自分でページをめくって声に出して読んだり、読み聞かせの真似事をしてくれます。それぞれに成長を感じる毎日で、親の私もたくさんの刺激をもらっています。

今年のゴールデンウィークには、子供たちを連れて、福井県越前市にある「かこさとしふるさと絵本館」と、ちょうど開催していた特別展に行ってきました。偶然にも、私の母の実家が武生であり、ご縁を感じた次第です。これまでは、絵本作家さんのことまで深く考えたことがなかった私でしたが、「かこさとし」さんの遺された数えきれないほどの絵本と、ただただ「子どもさんたち」のために書き続けられた加古さんの思いに触れ、何とも言えない感銘を受けました。

昨年のお手紙に書かせていただいた「みずとは

なんじゃ」は、刊行してすぐに子供たちと読みました。とても身近で、生活にはなくてはならない水について、小さな子供でも分かりやすく書かれており、子供たちは真剣に聞いていました。また、絵本の中には「からすのぱんやさん」「どろぼうがっこう」「だるまちゃん」など、加古さんの代表作のキャラクターが描かれており、子供たちと一緒にそれらを探すことも楽しかったです。「かこさとし」さんご本人も絵として登場しており、とても味わいの深い絵本でした。絵本を通して、自然の大切さを感じ、かけがえのない地球を大切にしたいね、と子供たちと語り合うこともでき、本当に良い経験になりました。絵本を読み聞かせすることにも留まらず、読み終わった後のコミュニケーションの時間も、大切にしたいと感じています。

絵本を通して、本当に色々な経験をさせてもらえて、本当に有り難いです。この一年も様々な絵本との出会いがあり、毎日が楽しいです。長男を妊娠した際に、荒川区から頂いた柳田先生の「みんな絵本から」を再度読み直してみると、本当にその通りだと強く実感します。メディアが発達する中で、ますます「絵本」の存在は大きくなっていくことと思います。世の中の宝である子ども達が健やかに成長していくために、私も助産師として微力ながらも生涯をかけて何かできないかと考えています。

昨年、先生から頂いた「マタニティブックスタート」についてのメッセージ、とても嬉しく読ませて頂きました。本当にありがとうございます。胎児のうちから絵本の読み聞かせをする効果を、多

くの方に知ってもらいたい思いがとても強くなりました。微力ながらも、少しでも多くの妊婦さんに知ってほしいと、地域の助産師仲間や絵本を通じて知り合った仲間とともに、活動を始めようと考えている次第です。先生に素敵なお報告ができるように、今日からまた頑張っていこうと思います。